

文章題テスト・小説(3)

日 月 名 前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ジャンボの家には、タッチやハマちゃんもアツま^アっていた。みんなでゲームをしながら、おしゃべりのワダイ^イは自然^{しぜん}と、四月のクラス替え^がのことになった。いまは一月の終わり——あと二カ月で、四年生が終わる。五年生に進級^ウするときにクラス替えがあるので、ぼくたちが同級生でいられるのもあとちょっとだ。

「四人そろって同じクラスって、やっぱり、無理^むだよなあ……」

ジャンボが言うと、ハマちゃんも「四年一組、最強^{さい}だったのになあ」と寂^{さび}しそうにならずいた。

「でも、クラス違^{ちが}ってても、オレたちずっと友だちだよな！」

タッチがガッツポーズをつくって、ぼくの肩^{かた}をポンとたたいた。

「なっ? ツヨシ」

「……うん」

²しよんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは「なんだよ、ツヨシ、もう落ち込^こんでんのかあ?」と笑^{わら}った。「だいじょうぶだいじょうぶ、授業中^{じゅぎょうちゆう}は別^{べつ}のクラスでも、休み時間に廊下^{ろうか}に出たら、いつでも遊^{あそ}べるんだから」

「……うん」

「どうしたんだよ、ツヨシ、さっきから元気ないなあ」

元気なんて出るわけない。頭の中はマコトの³こと³でいっぱいだ。

タッチたちには、まだ転校のはなしはしていない。べつに「ナイショだよ」とマコトに言われたわけじゃなかったけど、友だちにしゃべると、転校のことが「ほんとにほんとの、ほんとのこと」になってしまいそうな気がして……。みんなのおしゃべりは、今度は「女子の誰^{だれ}と同じクラスになりたいか」に



なった。

「オレ、マコトは同じクラスでもいいかなあ」とジャンボが言った。

タッチやハマちゃんも、うんうん、とうなずいた。

「あいつがいるとスポーツ大会とか優勝しそうだし」「オレたちが六年生にい

じめられてもタス^オけてくれそうだし」「コワそうな先生が担任^{たん}になっても、マ

コトがいたらだいじょうぶだよな」……。

⁴ みんなのはなしを聞いていると、急に胸^{むね}が熱^{あつ}くなって、泣^なきそうになって

しまった。

(重松 清「くちぶえ番長」による)

1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

オ

2 線1「四人そろって」とありますが、四人の名前をそれぞれ文中からさがして

書きぬきなさい。

3 線2「しょんぼりとうなずくぼくを見て、タッチは『なんだよ、ツヨシ、もう

落ち込んでんのかあ?』と笑った」とありますが、タッチは、「ぼく」がどのようなことを心配して「落ち込んで」いるか。もっともふさわしいものを、ア～エから選^{えら}んで、記号に○をつけなさい。

ア 「最強」のクラスがなくなってしまうこと。

イ またみんなと同じクラスになること。

ウ みんなと別のクラスになること。

エ コワそうな先生が担任になること。



4 線3「マコトのこと」とは、どのようなことですか。次の□に当てはまることばを、文中から書きぬきなさい。

マコトが、五年生に進級する前に

してしまうということ。

5 この文章から、「マコト」はどのような女の子だということが読みとれますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア おとなしくて、やさしい女の子

イ 自分勝手に、わがままな女の子

ウ 落ち着いていて、頭のいい女の子

エ 活発で、たよりになる女の子

6 線4「みんなのはなしを聞いていると、急に胸が熱くなって、泣きそうになってしまった」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを次のように説明するとき、□に当てはまるもっともふさわしいことばを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

今までのマコトとの思い出がよみがえり、もう会えなくなるかもしれないと考えて、どうしようもなく□になっている。

ア かなしい気持ち

イ なつかしい気持ち

ウ うれしい気持ち

エ はずかしい気持ち

